

セシ口ト鳥トチ合セテ鳴ト云フガ如キ其一例ナリ且ツ又二字ヲ併セテ字義ト呼聲トチ取ルヲ諧聲ト稱シ水工ニ從テ江トナリ可ニ添フテ河トナルガ如キ其一例ナリ而シテ古代ハ字數甚少數ナリシト雖ヒ漸次其數ヲ増シ遂ニ五萬餘字トナルニ至レリ

文字ニハ又大篆小篆隸楷行草等ノ諸體アリ是レ諸時代ニ於テ簡便チ主トシテノ發明ニ外ナラザルナリ

漢字ノ外猶ホ我朝製造ノ文字及和漢用法ヲ異ニスルノ文字アリ即左ノ如シ 謎ナゾ、榭、掟オキテ、騷シツケ、待峠、適アツパレ、俤オモカゲ、  
 宥シツリ、風コカテシ、桎モミヤ、梶、扱、島、問、込、辻、扒、  
 カマス、迎、令、給、者、存、觸、揃、悴、嗜、兼、詔アツラヒ、  
 儀、詰、拾、怡、等

上記中二三ニ就テノ例解チ示サントス周禮ニ遊倅ナル語アルチ以テ見レハ倅ハ倅ノ誤字ナルモノ、如ク之ヲ註シテ子之未仕者トアリ

「セシム」トハ他人ニ事物ヲ命シテ行ハシムル者ナルニ我國ニ於テハ往々自ラ事ヲナスニ用フ即チ古事談ニ德大寺大饗宇治左府令向給ノ時如法令食給云々トアリ此外諸字ニ就テノ例解ハ之ヲ畧スベシト雖ヒ讀者日ニ之ヲ實見スルモノ多シトス

墨迹又ハ諸書中ニ散見スル古字又少シトセス左ニ其一部ヲ抄録ス

貴(春) 穉(秋) 罰(道) 灑(法) 賁(慎) 敷(教) 賈(貴) 贛(貢) 無(無)

邊(退) 散(散) 晉(晉) 贊(曹) 虔(手) 筮(昔) 黍(年) 亂(治)

又唐ノ則天皇后ノ作リタル字十二アリ之ヲ武后字ト稱シ即左ノ如シ

而(天) 窰(地) 囧(日) 囧(月) ○(星) 嬰(照) 夙(初) 卑(年) 風(君)

慮(臣) 舌(正) 虞(載)

以上ハ唐書ニヨレヒ宣和書譜ニハ十五字トアリ

第三章 音訓四聲及反切



音トハ唐山ノ語ニシテ訓ハ我日本ノ言ナリ古代漢文ニ初メテ訓點ヲ施シタルハ實ニ聖德太子ニシテ左ニハ韓音ヲ付シ右ニ我國訓ヲ施セリ其一例左ノ如シ

阿解途羅比加多羅古登坡 摩那尾鐵四加茂途比頭非登途爾阿多留

論語

學 而 第 一

呂無五

我久爾 多伊伊地

然ルニ後世ニ至テハ音讀スベキノ字ニハ〇〇ノ如ク細線ヲ右ニ引キ訓讀ニハ〇〇ノ如ク左ニ添フルヲ常トス 桓武天皇ノ延曆十一年明經ノ徒ニ詔シテ漢音ヲ習ハシメ十七年ニ至リ初メテ五經ヲ讀ムニ漢音ヲ以テセリ是ヨリ儒書ハ漢音ニヨリ佛書ハ吳音ヲ用フルニ至レリ然レハ是レ只ニ直讀ニ限リ倒讀ニ至テハ佛書ト同ク吳音ヲ用ヒシモ竟ニ直讀ハ廢レテ倒讀ノミ存シ是ニ於テカ直讀ノ音ヲ移シ以テ佛書ニ別テリト云フ然レハ儒籍ヲ讀ムニ時々吳音ヲ待チ初メテ了解ス

ベキノ處少ナカラズ人情世間是非今日城郭邦域等其適例ナリ蓋シ數字ハ最モ吳音多シ若シ漢音ヲ用フレハ七十二人六七ノ如ク信偏タルニ至ル又一入ヲ讀ムニイチノシメト唱スレバ天子ヲ意味スルモノニシテ他ハ皆イチニシト訓スベキナリ而シテ佛籍ト雖モ亦漢音ヲ用フルト少ナカラズ馬頭觀音ヲバトウ觀音ト讀ミ其他悉曇金輪弘道元ノ類是ナリ又因習上廢帝煬帝鄭玄皇侃孔穎達杜子美陳子昂等ノ變音ヲ發スル者アリ而シテ書名篇題等ハ多ク吳音ヲ用ヒ孝經詩經周禮儀禮禮記大戴禮公羊傳擅弓月令淮南子舊唐書貞觀政要通鑑通典山海經等ノ如キハ其好例ナリ昔シ曲禮ヲコクタイト讀ミ黑癩ト紛ルノ嫌アリシヲ以テ之ヲ改メタリト云フサレハ學者タルモノ兩音ヲ適當ニ混合應用スルヲ最肝要ナリトス

漢文ヲ學ブ者ハ文字ノ反切ヲ知得スルヲ必要ナリ〇〇反トアルトハ上ヲ父字ト云ヒ下ヲ母字ト稱ス父字ハ縱ニ上下ニ動キ母字ハ横ニ左



右ニ通ズ而シテ反切シ得タル字音ノ清濁ハ父音ニヨリ四聲ノ平仄ハ母  
 アイウエヲ 字ニヨル者ナリ例ヘバ **仁** ハ而隣ノ反ナレバ父  
 カキクケコ 母兩字ノ初ノ音「ト」リ「ト」ハ共ニ一横線上ニアル  
 サシスセソ ナ以テ「シ」ニ母音ノ語尾「ン」ヲ付シテ「シ」ト「ソ」ト發音ス  
 タチツテト **省** 悉井切ハ父母兩字ノ初音「シ」ト「セ」トハ一行中  
 ナニス子ノ ニアレハ一横線上ニアラズ故ニ父音ヲ下シテ「セ」  
 ハヒフヘホ ニ來ラシメ之ニ母字ノ語尾「イ」ヲ附シテ「セイ」ト稱  
 マミムメモ フルナリ  
 ヤイユエヨ **由** 于求反ハ父母兩字ノ初音「ウ」ト「キ」トハ共ニ一  
 ラリルレロ 横線上ニ在ラザルヲ以テ父音ヲ上セテ「キ」ト並ベ  
 ヲヰウエオ テ「イ」ニ來ラシメ之ニ母字ノ語尾「ウ」ヲ附加シテ「イ  
 ウ」ト呼ブ **餘** 許氣切ハ只ニ「キ」トナリ之ニ附スル  
 語尾モオク父音ヲ上下シテ母音ト並列スルノ勞

ヲ要セズ

此外又二重反ト稱スルモノアリテ即チ拗音ヲ直音トナスノ際之ヲ用  
 フ例ヘバ **波** 博禾反ハ「フ」トナリ **坐** 組果切ハ「ス」トナリ **杯** 布回  
 切ハ「フ」ワイ「ト」ナリ **端** 多官反ハ「ツ」ワン「ト」ナルガ如キ者ナリ之ヲ再ビ  
 反切法ニ試ミ「フ」ワ「反」ハ「ハ」ニツワン「切」ハ「タ」ン「ト」ナルモノトス  
 文字ノ四聲トハ平、上、去、入、ニシテ聲音ヲ發出スルノ際音調ノ差違アル  
 ニヨリテ別ツモノナリ例ハ橋、東等ノ字ハ平聲ニシテ箸、火、ハ去聲ニ屬  
 シ端、樋等ハ上聲ナルガ如シ而シテ字典ニ於テ此四聲ヲ區別スルニハ  
 文字ノ四隅ニ半圈ヲ付シ上聲ハ上左角、去聲ハ上右角、入聲ハ下右角平  
 聲ハ下左角ナリ唐土ニ在テハ梁ノ沈約初メテ天子聖哲ノ四字ヲ各平  
 上去入ノ一ナルヲ論シ以テ諸字ノ四聲ヲ正セリ然ルニ我國ノ字音  
 ハ大ニ之ト異リ只ニ入聲ハ語尾ニ「フ、ツ、ク、チ、キ」ノ音ヲ有スルノミニシ  
 テ平去上ノ三聲ハ其區實ニ不明ナリ支那ノ入聲ハ我國ニテ日本ト讀



ムキノ日ノ如ク短縮セル音ヲ云フ而シテ漢字ハ四聲ノ別ニヨリテ義  
 ナ異ニスルコト少カラザルガ故ニ學者タルモノ之ヲ混同スルノ誤ニ陷  
 ルベカラズ例ハ中ノ字ハ中間ヲ意味スルキニ上平ニシテ的中ヲ指示  
 スルキハ去聲ナリ又難ハ艱難トナレバ去聲ニ屬シ難爲ノ如キ意ヲ有  
 スレバ下平ナリ且ツ術數ト計數トノ數ハ去聲ニシテ數之ト云フ場合  
 ニ於テハ上聲ニ屬スルモノナリ

漢文讀法ニ於テ字音ヲ註スルヲ音釋ト稱ス本邦ニ於テハ訓讀ヲ主要  
 トナスヲ以テ音ヲ知了セズト雖モ文意ヲ解シ得ベシ然レモ支那ニ於  
 テハ音ヲ知ラザレバ書ヲ讀ムコト能ハザルヲ以テ若シ書冊中ニ難字ア  
 レバ必ズ之ニ付スルニ音釋ヲ以テス蓋シ音釋ニ四種アリ一ハ反切二  
 ハ直音三ハ四聲四ハ如字ナリ反切ハ見ノ字ニ賢遍切ト付スルガ如キ  
 モノニシテ直言トハ樂ノ字ニ音洛ト直示スルノ類ナリ四聲トハ重ハ  
 平聲濟ハ上聲易ハ去聲埒ハ入聲トアルガ如キモノニシテ如字トハ某

如字トアルノ類是レナリ前既ニ述ブルガ如ク難字ニハ反切又ハ直音  
 ナ附スルヲ常トスレモ若シ難字ニアラズシテ音釋アルキハ必ズ二以上  
 ノ多音ナル文字ニシテ其意ノ紛亂ヲ妨グ者ナルヲ了スベシ多音ハ天  
 地山川林麓等ノ如キ獨音文字ニ反シ數音ヲ有スルガ故ニ點發ヲ以テ  
 其音ヲ別ツヲ常トシ之ヲ發音ト云フ多音文字ハ必ズ一ノ本音ヲ有シ餘  
 ハ皆旁出ナリ本音ニハ點發ヲ附セズ只ニ旁出ニ於テノミ四聲ニ從テ  
 半圈ヲ點ズ而シテ多音文字ヲ旁出ノ音ニ讀ムナク只ニ本音ノ儘呼誦  
 スルヲ指示スルキハ如字ト註スルモノナリ上述ノ如ク音ニヨリテ意  
 義ノ異同ヲ生ズル者ナルガ故ニ書ヲ讀ムノ輩徒ニ訓讀ニ聊賴セズヨ  
 ク音釋ニ留意シ音ヲ辨シ意義ヲ明知スルコト實ニ緊要ナリト云フベシ  
 今一孰字ヲ讀ムニ當テ音訓ヲ混交スベカラズ世俗上月日出立合羽結  
 納等ノ話語アレモ漢文上毫モ斯クノ如キモノナシ郷人宋人等ノ如キ  
 ハ此禁ヲ冒セルヤノ觀ナキニアラズト雖モ是レ元來郷ノ人及宋ノ人



ナル意ヲ有スルヲ以テ敢テ咎ムベキニアラズ然ルニ世人動モスレバ  
 天地父母トハ讀マサレト或ハ市朝并田初命弓矢喪祭悔吝小人津梁彌  
 天雜沓黃山谷白鹿洞等ト誤讀スル者アリ是等ハ己ノ短チ人ニ示スノ  
 ミナラス實用上大瑕ト稱スベキモノナラズヤ  
 朱子ノ說チ國學ニ立テシハ之チ正義トスベシ而シテ訓點ハ後藤本チ  
 以テ至適トナス然レモ時ニ或ハ過不足ノ處アルチ免レズ例ハ視而不  
 見聽而不聞ト訓讀セバ大ニ明晰ナルベシト雖モ後藤點ハ之チ視而不  
 見聽而不聞トナセリ抑モ訓點ハ註疏ノ意ニ吻合スルチ務ムベシト雖  
 モ大差アルニ非レバ句調誦法ノヨキニ從フモ可ナルベシ詩經ノ南有  
 喬木ノ註ニ南ハ終南山トアルチ以テ實ハ音ニテ南ニ喬木アリト讀ム  
 チ法トナスベキモ實際然ラズ又大國ハ小國ニ對スルモノナレバ大チ  
 讀ムニ太ノ音チ用フルハ其當チ得ズト雖モ大差ナキチ以テ之チ正ス  
 チ要セザルナリ其他近體ノ詩句ニ怪來トアリ此來ハ往來ノ來ト異チ

レモ「キタル」ト讀ミ又妄ト「ミダリ」トハ少シ意味上ノ差アレモ之チ音讀  
 シテ「ボウ」ト云ハザル方却チ妥當ナルベシ之ニ反シテ漫ノ字ハ「ミダリ」  
 ト讀ムモ「マン」ト唱フルモ兩ツナガラ宜キカ如キノ觀アリ  
 又訓讀法ニ就テ注意スベキノ數點チ述ベン天下平可也等ノ類ハ其語  
 尾ニ必「ナリ」ノ假字チ付スベシ又也ノ字アリテモ讀ムベカラザル處少  
 カラズトス例ハ孰不可忍也ノ如シ  
 頃之又ハ久之等ニ於テハ之ノ字チ讀マザルニ同シト雖モ莫大焉不在  
 焉ニ於テ焉チ省キ故サラニ心不在焉ト訓シ爲ニ讀ミ難キニ陷ラシム  
 ル「」アリ又捨假名チ省略シ却テ誤謬ニ陷ルモノ少ナカラズ「事」マツ  
 ル「」事フルト畧讀スルガ如キハ毫モ不可ナシト雖モ君々臣々父々子  
 々等ニ至テハ二字ノ間ニ「」チ加ヘザレバ意義通シ難ク助辭ノ用法  
 亦實ニ侮ルベカラザル者ナリ又鼎鑄玉鏤ト讀ムベキチ大ニ省畧シテ  
 鼎鑄玉鏤ト讀ミ恰モ四物ノ如キ思ヒチナサシム有在無無等モ「」チ省



去セハ開惡キニ至ルベシト雖ヒ二三相重累スルキハ之ヲ畧セザルヲ  
 得ズ即チ不能有全之及無有無畏等ノ如シ  
 素讀ハ勉メテ語路穩當晤啞爽明ヲ期シ記憶シ易キヲ主トスベシ然ル  
 キハ援ヲ註釋ニ仰ガズシテ自ラ義理ヲ通悟スルニ至ラン古人モ讀書  
 百遍義自通ズト云ヘリ或人北野ニ詣テ東行西行雲渺々二月三日遲  
 ヲト云ヘル神詠ヲ誦セシガ夢ニ神出現シテトザマニユキカウザマニ  
 行キテ雲ハルハ、キサラキヤヨヒ日ウラ、ト詠スベシト命ゼラレ  
 タリト云フ是レ附會ノ說信ズルニ足ラズト雖ヒ音讀ヲナスモノ宜シ  
 シ其眞意ノ存スル處ヲ推考スベキナリ  
 熟字聯句ニハ連聲ト稱シテ上字ノ音ノ爲ニ下字ノ音變スルヲアリ例  
 ハ文王武王ヲ「ブンナウ」「ブノウ」ト稱シ觀音妙音ヲ「クワンナン」「ミヤウノ  
 ン」ト讀ムベカラザルガ如シ若シ元和ノ例ヲ以テ和漢ト讀ミ三位ヲ摸  
 範トシテ一位ト唱ヘ又四方東方西方南方北方等ト讀誦セハ喉舌ノ開

合實ニ不自由ナルヲ感スベシ  
 又音讀ノ「テニナハ」ニハ必ス濁ルベキ字アリ即命ヅ奉ヅ信ズ任ズ禁ズ  
 討ズ論ズ講ズ感ズ應ズ長ズ減ズ轉ズ變ズ獻ズ報ズ散ズ崩ズ薨ズ乘ズ  
 等ナリ  
 又朱引ノ歌ニハ細線一條ヲ右ニ付シテ地名ヲ示シ左ニ記シテ官名ヲ  
 表シ字間ニ引テ人名ヲ現ハシ又二線ヲ左例ニ引テ年號トナシ字間ニ  
 畫テ書名トス例ヘハ左ノ如シ

東京 孔子 夫子 史記 明治

第四章 文字ノ片通及習慣上ノ誤謬

文字ノ甲ニ通ズルモ乙ニ通ゼサルモノヲ片通ト稱ス例ハ知チ智ニ代  
 用シ得レヒ智チ「シル」ト讀ム「ナシ」信チ「使ヒ」ノ意ニ用フレヒ使チ信義  
 ノ信ニ適用スルヲ得ズ馬ヲ御スルノ御ハ馭ト全シケレヒ誰レモ馭用



向<sup>キ</sup>馭史大夫ト書スルモノナシ又同音ナルモ即席ヲ則席トシ法則ヲ法  
 即ト書スルガ如キハ徒ニ人ノ誹ヲ招クノミ且ツ字畫ノ上ニモ此類少  
 ナカラズ秋ヲ炸トシ晚ヲ魁トシ其他蘇、蕪、昶、景、峯、岸、岬、鷄、雞、鴈、雁、ノ類  
 アルヲ見テ明リニ之ニ模倣シ字畫ヲ上下左右シ得ベキモノトナシ棗  
 ナ棘ト書シ雅ヲ鴉ニ作り鳴ヲ唯トナシ駟ヲ罵トシ甚キニ至ツテハ豆  
 腑ヲ臟腐ト書スルニ至ルモノナリ而シテ字畫ヲ上下左右シテ可ナル  
 モノハ唯鷺ノ字ニ於テ之ヲ見ルノミ又無ノ字ノ足ハ火ニ非レト三梁  
 四柱烈火燃ユト云フコアルヲ見レバ火ト書シテ尙咎ナキニ似タリ冠  
 罰ノ二字ハ冠罰ト等シケレト利ヲ利ト書シ村ヲ村トナスガ如キハ實  
 ニ濫紊ニ陷レルモノナリ

又漢文ニハ帶説ト稱シテ不用ノ文字ヲ加ヘ以テ熟語ヲ完成スルコト  
 リ易經ニ温之以日月ト云ヘルガ如キニテ就テ考フルニ月ハ只附添ノ  
 字ニシテ他物ヲ温ムルノ理ナシ此外禮記ニ大夫ハ不得造乎馬トアリ

宋玉ノ文ニ豈能與之料天地之高トアルカ如キハ皆同例ナリ

漢文ノ讀法ニ於テ明ニ其音ノ謬ルヲ知ルト雖<sup>モ</sup>因習ノ久シキ今之ヲ  
 改メ難キ者アリ范<sup>ス</sup>睢<sup>ス</sup>ハ正音范<sup>ス</sup>睢<sup>ス</sup>ナルノ證アレト漢ノ高誘國策ヲ註セ  
 ル頃ヨリ「ス」ト音讀セルガ故ニ遂ニ如何トモナスベカラザルニ陷レ  
 リ隋唐ノ隋ハ正音「ダ」ナリト揚升菴モ論シタレト升菴在世ノ明朝以前  
 ニ於テ既ニ隋ノ音成立セルヲ以テ是亦改ムベカズ且ツ隋ノ高祖揚堅  
 宇文周ニ在テ隨公ニ封セラレ後ヲ周ノ祚ヲ遷スニ及ンデソノ國ヲ以  
 テ世ヲ有ツノ號トセシコトナレバ忌ム處アリテ<sup>シ</sup>逖<sup>シ</sup>（シ<sup>ニ</sup>ウ<sup>）</sup>ヲ除ク  
 モ舊音ヲ改メザリシナリ况ンヤ「ダ」ハ墮落ノ嫌諱アルニ於テオヤ既ニ  
 前ニ忌ム後又之ヲ忌ム元ヨリ其當ナリ胡身之ノ通鑑ニ加ヘタル註ニ  
 モ「ダ」ノ音ナキヲ以テ見レバ升菴ノ說亦信ズベカラズ又近クハ詩語碎  
 金ヲ「詩語サイキン」ト讀ムベカベカラザリ猶質物ヲチモツト讀マス鍛  
 冶ヲ「タンヤ」ト唱フベカラザルガ如シ伐木丁々ナル詩句ニ於テ丁ハ音



爭トアレヒ之ヲ通常テウ「ト讀ミ孟子ノ胡訖ハ音核トアレヒ」コソツ「ト讀ミ禮記ノ麻桌(音洗)ハ「マシ」ト唱ヘ書經ノ蔡沈(音澄)ハ普通サイナソ「ト讀ムカ如キハ皆既ニ通音ト化セルモノナリ又現時我國ニ於テ普通ニ行ハル、誤音ハ運輸<sup>ウツク</sup>ヲ「ウンユ」ト讀ミ組織<sup>ソウジキ</sup>ヲ「ソシキ」ト唱フルガ如キ其一端ナリトス

### 第五章 句讀法

句讀法トハ所謂句切ニシテ語ノ絶ル處ヲ句トナシ語ハ絶ヘザルモ長文ハ之ヲ適宜ニ小別シ句切ヲ多ク附シテ讀講ニ便スルノ法ナリ若シ句讀ヲ知ラザレバ句法字法ヲ曉ルヲ能ハズ爲ニ文意ヲ通解スルヲ難キニ陷ルノミナラズ到底漢文ノ妙味ヲ咀嚼スルヲ得ザルベシ故ニ後進ノ輩ハ唔啞ノ際徒ラニ蟬鳴亂蛙ニ倣フナク深ク心ヲ句讀ニ留メ句切法ニ注意シ白文ヲ讀ムト雖ヒ意義自ラ明了ナルヲ得ルニ至ルベキ

ナリ古代假名文字ノ發明アラザリシ際ニ於テ書ヲ讀ムニハ朱ヲ以テ文字ノ四角四方ト中心トニ附點シテ國語ノ助辭<sup>テオナ</sup>ヲ記シ諸家及大學ノ點法更ニ一定セズ假名發明以後モ亦之レヲ襲用セリト雖ヒ德川以來全ク此法ヲ廢シ專ラ片假名ヲ付記スルヲトナセリ  
訓點トハ一名旁註ト稱シ書ヲ讀ムニ當リ片假名ヲ以テ文字ノ下隅ニ「テニチハ」ノ符號又ハ捨假名ヲ付シ一二三上中下甲乙等ノ廻讀符號ヲ書シ批圈ヲ加ヘテ句讀ヲ施シ以テ讀法ヲ明示スルノ總稱ナリ  
句讀ノ正邪ニヨリテ文意ノ解釋ヲ異ニスルヲ實ニ多キヲ以テ今左ニ參考ノ數例ヲ出サソ(ハハ句點、○ハ小段、ハ大段落ナリ)

龍氣ヲ吐ケハ雲ト成ル、雲固ヨリ靈ナラザルナリ、<sup>文節</sup>然レヒ、龍是レ氣ニ乗シ、茫洋トシテ玄間ヲ窮メ、日月ニ薄リ、光景ヲ伏ス、震電ニ感シテ變化ヲ神ニス、下土ヲ水シテ陵谷ヲ汨タス、雲モ亦靈怪ナルカナ」  
武安侯田蚡者、孝景后同母弟也、生長陵、<sup>二</sup>魏其已爲大將軍、<sup>三</sup>後方盛、蚡爲諸



郎、未<sup>マ</sup>貴<sup>カ</sup>往<sup>キ</sup>來<sup>キ</sup>侍<sup>シ</sup>酒<sup>シ</sup>魏<sup>コ</sup>其<sup>コ</sup>跪<sup>シ</sup>起<sup>シ</sup>如<sup>シ</sup>子<sup>シ</sup>姪<sup>シ</sup>及<sup>シ</sup>孝<sup>シ</sup>景<sup>シ</sup>晚<sup>シ</sup>節<sup>シ</sup>盼<sup>シ</sup>益<sup>シ</sup>貴<sup>シ</sup>幸<sup>シ</sup>爲<sup>シ</sup>太<sup>シ</sup>中<sup>シ</sup>丈<sup>シ</sup>夫<sup>シ</sup>盼<sup>シ</sup>辯<sup>シ</sup>有<sup>シ</sup>口<sup>シ</sup>學<sup>シ</sup>槃<sup>シ</sup>孟<sup>シ</sup>諸<sup>シ</sup>書<sup>シ</sup>王<sup>シ</sup>太<sup>シ</sup>后<sup>シ</sup>賢<sup>シ</sup>之<sup>シ</sup>孝<sup>シ</sup>景<sup>シ</sup>崩<sup>シ</sup>即<sup>シ</sup>日<sup>シ</sup>太<sup>シ</sup>子<sup>シ</sup>立<sup>シ</sup>稱<sup>シ</sup>制<sup>シ</sup>所<sup>シ</sup>鎮<sup>シ</sup>撫<sup>シ</sup>多<sup>シ</sup>有<sup>シ</sup>田<sup>シ</sup>盼<sup>シ</sup>賓<sup>シ</sup>客<sup>シ</sup>計<sup>シ</sup>筭<sup>シ</sup>盼<sup>シ</sup>弟<sup>シ</sup>田<sup>シ</sup>勝<sup>シ</sup>皆<sup>シ</sup>以<sup>シ</sup>太<sup>シ</sup>后<sup>シ</sup>弟<sup>シ</sup>孝<sup>シ</sup>景<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>三<sup>シ</sup>年<sup>シ</sup>封<sup>シ</sup>盼<sup>シ</sup>爲<sup>シ</sup>武<sup>シ</sup>安<sup>シ</sup>侯<sup>シ</sup>勝<sup>シ</sup>爲<sup>シ</sup>周<sup>シ</sup>陽<sup>シ</sup>侯<sup>シ</sup>。

太史公曰、傳曰、其身正不令而行、其身不正雖令不從、其李將軍之謂也。余賭李將軍、俊々如鄙人、口不能道辭、及死之日、天下知與不知、皆爲盡哀。彼其忠實心、誠信於士大夫也。諺曰、桃李不言、下自成蹊、此言雖小、可以喻大也。

### 第六章 譯文法并同字解數例

和ヲ漢ニ譯シ漢ヲ和ニ譯スル法又肝要ナリ殊ニ彼ノ地名人名ノ如キモノハ之ヲ我類似ノ名ニ代フルキハ一層譯文ノ美ヲ増シ大ニ人心ヲ感動セシムルノ力ヲ生ズルモノトス文ノ字句ヲ追フテ譯解スルヲ直

譯ト稱シ其全意ヲ敷衍スルヲ意譯ト云フ今其數例ヲ左ニ掲グベシ

韓退之作 松井壺峯和譯

與有譽於前孰若無毀於其後與有樂於身孰若無憂於其心

今さし當りて名譽幸福あらんよりは跡々に非議災厄なきとは何れか優れるか其形體に樂しみの有ると心中に憂なきとはいづれか勝れるや(直譯)只人は今を求めずして後を省りみ形を捨て、心を取りたきとにこそ(敷衍)

淮南子作 日本某氏和譯

短綆不可以汲其深小不可以謀其大焉故不較器之量而盛物則必溢非計己之力而任事則其事必廢矣

凡そ世に錯誤失策と唱ふる者多くは我心の智と身の力とを較らずして妄りに進むを以てなり喩へば短かき釣瓶索もて深き水汲むが如く又其器をはからずして物を容れんとするに似て其事終に成り



がたく必ず中道にして廢るゝものなり  
 赤壁之賦 蘇東坡作 伴蒿蹊和譯 (原文ハ之ヲ畧ス)  
 ふ月のもちの夕ざり友ごちと舟をうかべて桂より大堰ひらにのぼす吹  
 風はすゞしきものからたつ瀟もなし盃をわけてまらうとにすゝめ  
 折につけたる古ごどとせもうちずし(下畧)

和文漢譯 釋月漂子譯

爰に耳聾もたる翁ひとり野中の道を歩み行くに一條の小川ありける  
 故徒渡りせんと思へども深さ淺さを計りかね暫し佇立て様子を見  
 るに既に川を渡りはてゝ向ひの岸にのぼる者あり因て聲高く呼び  
 かけつゝ水の深さを問ひけるに其人も亦耳遠くして何をか言はん  
 と思ひしかば手を以て己が耳を指さし耳聾なるを知らするにぞ  
 此方の翁は大に驚き水の深さは耳まであるかと  
 一聾者將涉河而未知其淺深偶有已渡者聾者高聲曰河水深乎否乎已涉

者亦聾也見唇動以知有言乃揚手以指耳聾者驚不能渡返焉

青砥藤綱ノ事(太平記) 山本北山及服部南郭漢譯

青砥左衛門夜に入て出仕したるにいつも燈袋にいれて持ちたる錢  
 を十文取りはづして滑河へぞ落し入れたりける少事の物あればよ  
 し扱もあれかしとてこそひ通べかりしが以の外の周章てゝ其邊の  
 町屋へ人をはしらかし錢五十を以て燈あき松を買て則ち是をともし遂  
 に十文の錢を求め得たり

青砥藤綱夕北條氏途誤墜燈袋中錢十文於滑河少物失之固無害也人  
 不必懸念藤綱反驚憂乃遣人於近里用五十錢買炬火照水盡搜得十錢  
 青砥藤綱夜涉水從者誤失墜錢十文以告藤綱藤綱乃命別出錢五十文  
 雇夫炬照水底而搜索焉訖得而歸

同訓ノ文字ニシテ其用處ヲ異ニスルモノ亦少ナカラズ左ニ順次其二  
 三例ヲ解明スベシ



既、己、已業 (スデニ)  
 既ハ十分ナル過去ヲ示シ已ハ半過去ノ意ヲ表シ已業ハ之ヲ中止セシ  
 ト欲スルモ能ハザルキニ用フ 例、既望十六夜) 已望十五夜)  
 雖欲求之噫已業遲矣等ナリ  
 正、將、當 (マサニ)

正ハ必然適切ノ意ヲ示シ將ハ將ニ〇〇<sup>ナク</sup>セントス<sup>ト</sup>云フガ如ク主トシ  
 テ未來ヲ現ハシ當ハ推測ノ意ヲ有シ常ニ當ニ〇〇ナルベシト訓ス例  
 ハ是正然矣、將捕賊、彼當來降等ノ如シ

乎、哉、耶、(カ)

乎ハ疑ヲ含ミ哉ハ感歎ノ意ヲ有シ耶ハ疑ノ内自ラ確斷ノ意ヲ包ムモ  
 ノナリ即君不見乎、真英傑哉、無馬乎或不知馬耶等ノ如キハ實ニ適例ナ  
 リ

即、則 (スナハチ)

即ハトリモナホサズ例ハ等ノ意ヲ含ミ則ハ常ニ上ニレバノ捨假名ア  
 ルキニ用サラル故ニ一名之ヲレバ則ト云フ例ハ彼即其人也、彼不來則  
 當死矣等ノ如シ而シテ此外同訓ノ乃曹等アレヒ寧ロ即ニ類スルモノ  
 ナリ

者、物 (モノ)

物ハ只ニ無生物ニ用サラレ者ハ萬物殊ニ有生物ニ用サラル例ハ生キ  
 トシ生ケル者、荷物、物品等ノ如シ



算 術

(算術ニ應用ノ部ハ既ニ小學科ニ於テ卒業シタリトナシ今茲ニ主トシテ理論上ニツキ定義法則等ヲ載ストナシ)

第一章 總論及四則

數ノ定義、數トハ同種類ノモノ、集合ヨリ起ル考ナリ  
 量ノ定義、増加或ハ減少シ得ベキモノヲ量ト云フ  
 單位ノ定義、量ノ計算ニ用フル一定ノ目當ヲ單位ト云フ  
 整數ノ定義、或ル量ノ丁度單位ノ幾倍ニ等シキハ之ヲ稱シテ整數  
 又ハ完全數ト云フ而シテ完全數ノ數ハ實ニ無窮ナリトス  
 分數ノ定義、分數トハ或ル量ガ單位ヲ幾個ニ等分シテ得ル處ノ部分  
 ノ幾倍ニ等シキカヲ示ス所ノ數ナリ  
 不盡數ノ定義、分數又ハ整數ヲ以テ表示シ得ザル數ヲ不盡數ト云フ

數學ノ定義、數學トハ計算シ得ベキ量ノ學問ナリ  
 算術ノ定義、數學ノ一部分ニシテ數ヲ取扱フ學問ヲ算術ト云フ  
 命數法ノ定義、言語或ハ文字ヲ以テ數ヲ表示スル法ヲ命數法ト云フ  
 有効數字ノ定義、1ヨリ9ニ至ルマデノ數字ヲ0ニ對シテ有効數字  
 ト云フ  
 原位、一、十、百、千、萬、十萬、百萬、千萬、億等ヲ夫々第一原位、第二原位、第三原  
 位……ト稱シ一、萬、億、兆等ヲ名ツケテ第一、第二、第三、第四等ノ大原  
 位ト云フ  
 完全數ヲ書スル法則、或ル完全數ヲ書スルニハ左ヨリ起算シ一位、二  
 位、三位等ノ所ニ此數中ニアル第一原位、第二原位、第三原位等ノ數ヲ  
 表ハス數字ヲ書スベシ若シ或ル階級ノ原位此數中ニナキハ其所  
 ニ零ヲ補フベシ  
 加法ノ定義、若干ノ數ヲ合一シテ其和ヲ作ル爲ニ行フ算法ヲ加法ト



云フ

加法ノ規則、若干ノ數ヲ横書シ全名ノ原位ハ同一ノ縦線上ニアラシメ最下ニ横線ヲ畫スベシ而シテ后右方ヨリ漸次各種原位ノ數ヲ加ヘ合ハセ其合計若シ九ヲ超ヘザレバ之ヲ其儘横線ノ下ニ書シ若シ十以上ナレバ端數ノミヲ横線下ニ書シ餘ハ次ノ原位ニ送リテ始メヨリ與ヘラレタル原位ト共ニ合算スベシ

減法ノ定義、一數ヲシテ他ノ一數ニ等カラシメン爲ニ之レニ加フベキ數ヲ作ル算法ヲ名ヅケテ減法ト云フ

減法ノ得タル結果ヲ差ト云フ

減法ノ規則、與ヘラレタル二數ヲ共ニ横書シ(ニ數相異ナルキハ大ナル數ヲ上ニシ小ナル數ヲ下ニス)同名ノ原位ハ同一ノ縦線上ニアラシメ下ニ横線ヲ畫クベシ而シテ右方ヨリ順次各原位ニツキ減算ヲ行ヒ其殘ヲ横線下同原位ノ處ニ記入スルヲ法トス今若シ大ナル數ノ或原位小ナル數ノ同原位

ヨリ小ナルコトアラバ大ナル數ノ原位ニ十ヲ増シテ減法ヲ行ヒ小ナル數ノ次ノ原位ニ一ヲ増シ大ナル數ノ次ノ原位ヨリ減スベシ  
乘法ノ定義、一數ヲ其單位ヨリ作ルト同シ算法ヲ他數ニ行フ方法ヲ乘算ト云フ

一數及ヒ他數ヲ夫々乘數被乘數ト名ツケテ乘算ノ結果ヲ積ト云フ又積ニ對シテハ乘數被乘數ヲ共ニ因數ト稱ス

乘法ノ規則、被乘數ノ下ニ乘數ヲ書シテ横線ヲ引キ次ニ乘數ノ中ニアル種々ノ有効數字ノ表ハス所ノ數ヲ被乘數ニ掛ケ其積ヲ横線ノ下ニ列書スベシ此積ヲ書スルニハ右端ノ數字ガ此積ヲ與ヘタル乘數ノ數字ノ下ニアルヲ要ス斯ノ如クシテ得タル諸積ヲ加算シテ所要ノ積ヲ得ベシ

連乘ノ定義、第一ノ數ニ第二ノ數ヲ乘シ其結果ニ第三ノ數ヲ乘シ斯クノ如クニシテ最終ノ數ニ至ル算法ヲ稱シテ連乘ト云フ



冪ノ定義、一二三四……ノ等シキ因數ヲ累乘シテ得タル結果ヲ其數ノ第二、第三、第四……冪ト云フ

或ル數ノ第二冪ヲ普通ニ其平方ト稱シ第三冪ヲ其立方ト名ヅク

除法ノ定義、一數ヲ得ル爲ニ他ノ一數ニ乘スベキ數ヲ作ル算法ヲ除法ト云フ

一數及他ノ一數ヲ夫々ニ除數、被除數或ハ法、實ト名ヅケ除法ノ結果ヲ商又ハ被除數ノ除數ニ對スル比ト稱ス

除法ノ規則、商ノ只一位ニ止マルベキヲ推知シタルキハ法ノ左端ニ在ル數字ヲ以ツテ實ノ同位ヲ割り得タル商ヲ法ニ乘シ其積實ヨリ大ナラザレバ是レ所要ノ商ヲ得タルナリ若シ其積實ヨリ大ナレバ商ヨリ一個ヲ減シテ同法ヲ試ミ猶ホ實ヨリ大ナレバ又一個ヲ減シ斯ノ如クシテ終末ニ得タル結果ハ即所要ノ商ニシテ其商ト法トノ積ヲ實ヨリ減シタルモノハ即除法ノ殘ナリ而シテ此殘ハ常ニ法ヨ

リ小ナリトス

商ノ只一位ニ止マラザルヲ推知シタルキハ實ノ左端ヨリ初メ法ヨリ小ナラザル數ヲ切り法ニテ之ヲ除セバ得商ハ即所要ノ商ニ於ケル首位ナリ今行ヘル除法ノ殘ノ右ニ實ノ餘數ノ第一位ヲ下シ更ニ除法ヲ行ヒ以テ所要ノ商ノ第二位ヲ得ベシ若シ第二ノ實法ヨリ小ナルキハ商ノ第二位ヲ零トシ更ニ次ノ一位ヲ下シテ同法ヲ行フベシ斯クノ如クシテ實ニ餘數ナキニ至リテ止ム而シテ其最終ノ殘ハ即此除法ノ殘ナリ

倍數ノ定義、一ノ整數アリテ他ノ整數ノ幾倍ニ相當スルキハ前ノ數

ヲ后ノ數ノ倍數ト稱ス

驗法、驗法ハ計算ノ後ニ於テ誤謬ノ有無ヲ試ル法ナリ

加法ノ驗法ハ上ヨリ下ニ加へ來レルヲ更ニ下ヨリ上ニ及ボスベシ減法ノ驗法ハ差ヲ減數ニ加へテ被減數ヲ生ズルカ又被減數ヨリ差



ヲ減シテ減數ヲ得ルカチ見ルニアリ  
 乘法ノ驗法ハ更ニ乘數ニ被乘數ヲ乘シテ積ノ差違ナキヤチ檢スベシ  
 シ又ハ被乘數或ハ乘數ヲ以テ積ヲ除シ乘數又ハ被乘數ヲ得ルヤ否  
 ヤチ見テ其誤否チ知ルチ得ヘシ  
 除法ノ驗法ハ更ニ商ヲ以テ實ヲ除シ果シテ法ヲ得ルヤ否ヤ或ハ法  
 ト商ヲ乘シテ實トナルヤチ檢スルニアリ

### 第二章 分數及小數

約數ノ定義 一ノ整數アリテ他ノ整數ヲ除シテ殘餘ヲ得ザルキハ前  
 ノ數ヲ後ノ數ノ約數ト名ヅク  
 奇數及偶數ノ定義 二ノ倍數ヲ偶數又ハ丁數ト稱シ二ニテ割り盡ス  
 ベカラザル整數ヲ奇數又ハ半數ト名ヅク  
 公約數ノ定義 一數アリテ衆數ヲ除シ盡クシ得ベキキハ之ヲ衆數ノ

公約數ト稱シ其最モ大ナルモノヲ最大公約數ト云フ  
 最大公約數ヲ求ムル法 小ナル數ニテ大數ヲ除シ其殘餘ヲ以テ小數  
 ヲ除シ互ニ如斯殘數ナキニ至テ止ミ其終末ノ商ハ即所要ノ最大公  
 約數ナリ但シ三數以上ノキハ二數ヲ以テ先ツ之ヲ求メ更ニ他ノ一  
 數ト求メタル數トチ以テ順次斯ノ如クスベシ

$$\begin{array}{r}
 A \quad B \quad Q \\
 \hline
 A \times Q \quad R \\
 \hline
 \quad A \quad Q' \\
 \quad \hline
 \quad RQ' \quad R' \\
 \quad \quad \vdots \\
 \quad \quad M \quad N \quad Q'' \\
 \quad \quad \quad \hline
 \quad \quad \quad MQ'' \quad O
 \end{array}$$

今二數ヲA Bトスレバ此數ノ公約數ハAト  
 Rノ公約數ナリ蓋シBハA Qノ積ニRチ加  
 ヘタル者ナレバナリ同理ニヨリテRトR'  
 ……及MトNトノ公約數ナリ而シテMノ約  
 數ハM自身ヨリ大ナル能ハズ故ニA Bノ最

大公約數ハMナリト論ズルチ得ヘシ  
 素數ノ定義 一及ビ自身ヨリ外ノ數ニテ割り盡シ得サル數ヲ素數又  
 ハ單數ト云フ而シテ素數ノ數ハ實ニ無窮ナリ



二ノ整数アリテ一ヨリ外ノ公約數ヲ有セザルハ此二數ハ互ニ素數ナリト稱ス

公倍數ノ定義、若干數アリテ各某數ヲ割り盡クシ得ベキハ其某數ヲ若干數ノ公倍數ト稱シ種々ノ公倍數ノ中ニ就テ其最モ小ナルモノヲ最小公倍數ト云フ

最小公倍數ヲ求ムル法、二數ノ最小公倍數ヲ得ンニハ其數ノ最大公約數ヲ以テ一數ヲ除シ其商ヲ他數ニ乗スルニ在リ若シ二數以上ナルハ二數ノ結果ト他一數トノ最小公倍數ヲ求メ順次斯ノ如クシ終末ニ得タルモノ即所要ノ最小公倍數ナリ

分解ノ定義、素數ナラザル數ヲ素數ノ積ニ化スルヲ稱シテ單純因數ニ分解スト云フ

分母及分子ノ定義、單位ヲ幾個ニ等分スルヲ示ス數ヲ分母ト云ヒ其部分ヲ幾個合同セルカヲ示ス數ヲ分子ト云フ

帶分數及假分數ノ定義、整数ト一ヨリ小ナル分數ノ和ヲ表ハスモノヲ帶分數ト云ヒ一個ヨリ大ナル分數ヲ假分數ト云フ

命分、假分數ヲ帶分數ニ化スルニハ分母ニテ分子ヲ除シテ整数ヲ得除法ノ剩餘ヲ分子トセル分數ヲ附記スベシ還元法ハ之ニ反ス

整数ヲ分數ノ形ニ化スルハ其數ニ分母ヲ乗セル者ヲ分子トスベシ約分、分數ノ數值ヲ變ゼズシテ分母子ヲ簡單ナラシムルニハ其最大公約數ヲ以テ分母子ヲ除スベシ其得タル結果ヲ已約分數ト云フ

通分、分數ノ數值ヲ變ゼズシテ幾多分數ノ分母ヲ同一ニスルノ法ヲ通分ト稱シ其公分母トシテ諸分母ノ最小公倍數ヲ採ルモノナリ分數加法、全分母ヲ有スル諸分數ヲ加フルニハ先ツ分子ノミヲ合計シテ和ノ分子トシ其公分母ヲ以テ和ノ分母トス

全分母ヲ有セザルモノハ通分シテ後ニ此法ヲ行フベシ  
帶分數ヲ加算スルハ整数ト分數ト別ニ合計シ後其和ヲ合スベシ



分數減法、全分母ヲ有スル二數ニ就テ減法ヲ行フニハ分子ノ差ヲ所  
 要ノ差ノ分子トシ公分母ヲ其分母トスベシ但シ全分母ヲ有セザル  
 モノハ通分ノ後之レニ從フ

帶分數ノ減法ハ整數分數別々ニ之ヲ行フベシ若シ此法ヲ爲シ得ザ  
 ルキハ共ニ假分數トナシ前法ニ從フベシ

分數乘法、分子ヲ連乘シテ積ノ分子トシ分母ヲ連乘シテ積ノ分母ト  
 ス而シテ整數ハ一ナル分母ヲ有スルモノトシ帶分數ハ假分數ニ化  
 シタル後此法ヲ行フベシ

此法タル分數ニ整數ヲ乘スルハ分子ニ乘シ之ヲ除スルハ分母ニ乘  
 バト云フ理ニ基ケルナリ今一分數ニ他ノ分數ノ分子ノミヲ乘ズレ  
 ハ是レ大ニ過乘セルナリ故ニ其積ヲ更ニ殘セル分母ニテ除シ初メ  
 テ所要ノ積ヲ得ルナリ之ヲ便宜法則ニアラハセバ即上述ノ如シ

分數除法、除數ノ分母子ヲ顛倒シテ一分數ヲ作り之ヲ被除數ニ乘ズ

ベシ整數及帶分數ニ就テノ注意并ニ其理ノ基ク處乘法ニ類ス

逆數、某數ニテ一ヲ除シタル結果ヲ某數ノ逆數ト云フ而シテ分數ノ

逆數ハ常ニ其分母子ヲ顛倒セルモノナリ

小數及帶小數ノ定義、分母ニ十ノ幾羈ヲ有スル分數ノ值ヲ表ハス數

ヲ小數ト云ヒ其整數ヲ帶ルモノヲ帶小數ト云フ

小數及帶小數ノ加減法規則、若干數ヲ並べ共ニ「コンマ」ヲ同縱線上ニ

アラシメ通常ノ加減ヲ行ヒ舊ノ處ニ「コンマ」ヲ附スベシ

小數及帶小數ノ乘法規則、初ニ通常ノ乘法ヲ行ヒ其積ノ右端ヨリ乘

數及被乘數ノ奇零以下ノ位數ヲ切り其處ニ奇零ヲ附スベシ

小數及帶小數ノ除法規則、先ツ小數ノ末位互ニ相等シカラザレバ零

ヲ補テ等シカラシメ通常ノ除法ヲ行ヒ實ノ法ヨリ小ナルニ至テ商

ニ「コンマ」ヲ點シ實ノ末位ニ零一個ヲ補ヒ除法ヲ繼續スベシ零ヲ補

フ一度ニ二個ナルキハ商ニ零一個ヲ記スベク三個ナルキハ二個ヲ



記スベシ

循環小數ノ定義、無限ノ小數又ハ帶小數ノ其内ノ幾位連續的ニ繰返ヘサル、モノヲ循環小數又ハ循環帶小數ト云フ

其繰返サル、數位又ハ一位ヲ循環位ト云ヒ小數部全體循環スルモノヲ正循環小數ト云ヒ小數ノ初部不循環位ヲ有スルモノヲ混循環小數ト云フ

化法、分數ヲ小數ニ化スルニハ小數ノ除法ヲ参照シ其分母ヲ以テ分子ヲ除スルニ在リ而シテ其分母二及五ノ因數ニ分テ得ルキハ其結果正小數ニシテ若シ他ノ因數ヲ含ムキハ循環小數ナリ

小數ヲ分數ニ化スルニハ其小數位丈ケノ零ト其左ニ一ヲ有スル數ヲ分母トシ該小數ヲ分子トナスニ在リ

正循環小數ヲ分數ニ化スルニハ循環位ヲ分子トシ之ニ等シキ位數丈ケ九ヲ横記シタル數ヲ分母トナスニアリ

混循環小數ヲ分數ニ化スルニハ不循環位及ビ循環位ノ右位ヨリ不循環位丈ヲ減セルモノヲ分子トシ循環位丈ケ九ヲ羅記シ其右方ニ不循環丈ケノ零ヲ加書シタル數ヲ分母トスルニ在リ  
循環小數ノ四則、加減ハ循環位ヲ數度羅記シテ後加減法ヲ施シ以テ新循環位ヲ定メ或ハ分數ニ化シテ行フ而シテ乗除ハ常ニ分數トナシテ行フベシ

### 第三章 諸等諸法

「メートル」法、此法ニ用フル單位ハ「メートル」ニシテ地球子午線ノ凡四千萬分ノ一ナリ其十倍、百倍、千倍及萬倍ナルニ從テ各「デカ」「ヘク」「キロ」及「ミリヤ」ヲ冠シ其十分ノ一、百分ノ一、及千分ノ一ナルニ從テ夫々「デシ」「センチ」及「ミリ」ノ語ヲ加ヘテ呼ブ  
一平方「デカメートル」ノ面積ヲ「アール」ト云フ



液體及穀物等ニ於テ其一立方デシメートルノ立積ヲリットルト云フ  
 攝氏ノ四度ノ水一立方センチメートルノ目方ヲ「グラム」ト稱シ其十  
 倍百倍又ハ十分ノ一等ヲ表示スル冠語ハ上述ニ全シ  
 又百「キログラム」ヲ「ケンタール」ト云ヒ其十倍ヲ「トン」ト云フ  
 我日本ニテ長サヲ計ルニハ丈、尺、寸、分、厘等ノ位ヲ用井曲尺ノ一尺二寸  
 五分ヲ鯨尺ノ一尺トシ曲尺ノ六尺ヲ一間ト云ヒ六十間ヲ一町ト云  
 ヒ三十六町ヲ一里ト云フ海ノ深サ計ルキハ一間ヲ一尋ト稱シ海上  
 ノ距離ヲ計ルニハ子午線ノ凡二萬千六百分ノ一即チ六町九七五ヲ  
 一海里トシテ之ヲ用フ  
 一間平方ノ面積ヲ一步又ハ一坪ト稱シ三十坪ヲ一畝トシ十畝ヲ一段  
 トシ十段ヲ一町トス  
 液體又ハ穀類ヲ計ルニ十進法ナル石、斗、升、合、勺等ヲ用フ一升枰ノ容積  
 ハ各邊四寸九分深サ二寸七分ナリ

重量ヲ算スルニハ十進法ノ分、厘、毛ヲ單位トシ千、匁、殊ニ一貫目ト  
 云フ又百、廿、匁、百、六十、匁或ハ二百、匁等ヲ一斤ト稱ス  
 英米ニ於テハ凡九十一「センチメートル」四三八「ヤード」トシ五「ヤ  
 ード」半ヲ「ロッド」トシ三分ノ一「ヤード」ヲ「フット」トシ其十二分ノ一  
 ヲ「インチ」トナス而シテ「マイル」ハ實ニ三百二十「ロッド」ナリ  
 貨位ハ我國ニ於テ十進位ノ錢、厘、毛ヲ以テ計リ百錢ヲ一圓ト云フ  
 角度ヲ計ルニハ全圓ヲ三百六十分シタル一チ一度トシ更ニ六十分シ  
 タル一チ一分トシ分ヲ六十分シタル者ヲ一秒トシテ之ヲ用フ  
 時間ヲ計ルニハ正午ヨリ次日ノ正午迄ヲ一日トシ之ヲ廿四分シタル  
 者ヲ一時トシ時ヲ六十分シテ一分トシ分ヲ六十分シテ秒トシテ之  
 ヲ各單位トス  
 諸等數ノ加減及簡單ナル乘除(即只ノ數ヲ以テ諸等數ヲ乘除スルモノ)  
 ハ諸等數ノ儘之ヲ行ヒ得ベシト雖モ諸等數相互ノ乘除ニ至ツテハ



共ニ同シ單位ニ導化シテ行フベシ

### 第四章 比例及比

比ノ定義、全種類ノ二量A、Bノ比トハBヲ單位ト見做スキハAヲ示ス處ノ數ヲ云フナリ例セバAノ長サハBニ十倍スルトシ今Bヲ單位トスレバAハ十ニシテ即是レAノBニ對スル比ナリ

比ヲ表スルニ $\frac{A}{B}$ 又ハ $A:B$ ト書シAノBニ於ケル又ハAニ就テハ[B]等ト讀ムナリ而シテAヲ上項ト云ヒBヲ下項ト云フ

逆比ノ定義、一量ノ他量ニ對シテ逆比トハ後ノ量ノ前ノ量ニ對スル比ナリ

比例ノ定義、二ノ比アリ互ニ等キヲ示ス等式ヲ比例式又ハ比例ト云フ例セバ $10:2=5:1$ 又ハ $\frac{10}{2}=\frac{5}{1}$ 等ノ如シ

相等號ノ左ニアル上項ト右ノ下項トヲ外項又ハ外率ト云ヒ其餘ヲ

二項ノ内項又ハ内率ト云フ

比例中率ノ定義、内率共ニ相等シキハ之ヲ外項ノ比例中率ト云フ

互ニ比例スル二量、目方ノ増加ニ從テ價格増加スルガ如キハ此目

方ト價格トヲ互ニ比例スル二量又ハ比例ニ變化スル量ト稱ス

互ニ逆比例ヲナス二量、人數ノ増加ニ從テ成功日限ノ短縮スルガ如

キハ此人數ト日數ト互ニ逆比例ニ變化スル量ト云フ

比例ニ就テノ應用問題

(一)比例即順比例ノ問題、今既知ノ三量ヲa、b、cトシ未知量ヲ求

ムルナリ此問題順比例ナルヲ以テ相互ノ關係下ノ如ク示シ得ベ

$\frac{a}{b} = \frac{c}{x}$  此場合ニ於テxヲ求メンニハ已知ノ同種二量

ノ比ヲ他ノ一已知量ニ乘ズルニアリ

(二)逆比例ノ問題、(一)ニ於テ用井タル文字ニヨリ今xヲ求メンニハ

已知ノ同種二量ノ逆比ヲ他ノ一已知量ニ乘ズルニアリ



(三)複比例即組立比例ノ問題、此問題ハ内ニ順比例ノ性ヲ有スル量アリ逆比例ノ質ヲ有スル數アリ故ニヨク之ヲ判別排列シテ(一)或ハ(二)ニ示ス如キノ法ヲ同時ニ施シ以テ之ヲ求メ得ベシ

### 第五章 開方

平方根ノ定義、一數ノ平方根又ハ第二羣根トハ其平方ガ其數ニ等シキ或數ヲ云フ例ヘバ9ハ81ノ平方根ナリ

立方根ノ定義、一數ノ立方根即第三羣根トハ其立方ガ其數ニ等シカルベキ或數ヲ云フ例セバ4ハ64ノ立方根ナリ

根ノ書方、 $\sqrt[2]{31}$ 又ハ常ニ零シテ $\sqrt{31}$ ハ81ノ平方根ヲ示シ $\sqrt[3]{64}$ ハ64ノ立方根ヲ示シ一般ニ $\sqrt[n]{125}$ ハ125ノn羣根ヲ示スナリ

開平方ノ定義、開平方トハ一數ノ平方根ヲ求ムル算法ナリ  
開平方ノ規則、整數ノ開平方ヲ得ンニハ先ツ初ニ該數ノ右端ヨリ二

位ヅ、點ニテ分ツベシ今又左ノ第一群ノ數ニ就テ開平方ヲ求メ之ヲ所要ノ開平方ノ首字トシ次ニ其平方ヲ第一群ヨリ減シ殘餘ヲ得其右ニ第二群ヲ下シ之ヲ第一ノ殘餘トナス今此殘餘ノ中右端ノ數字ヲ省キテ得ル數ヲ開平方中ニ得タル二倍ニテ割り完全商ヲ求ムベシ此商ヲ此割算ノ右ニ書加ヘ之ニ完全商ヲ乘シタルモノハ第一ノ殘餘ヨリ減シ得ルヤ否ヲ檢シ若超過シ居ラハ一ヲ漸減シ減シ得ルニ至テ止ミ減法ヲ行ヒ第三群ヲ下シ第二ノ殘餘トナスベシ而シテ今所要ノ開平方中既得ノ二數字ヲ列書セル二倍ヲ除數トシテ除法ヲ行ヒ所要ノ開平方ノ第三數字ヲ得ル前ノ如クシ漸次此ノ如クシ終末ニ達シテ初メテ開平方ノ殘餘ヲ得ベシ而シテ完全平方數ハ殘餘ヲ得ザルモノナリ

小數部ハ奇零ヨリ右ニ二位ヅ、切り全法ヲ行フニ求ムル小數位群數ヨリ多キハ適宜零ヲ補フベシ分數ハ分子分母各別ニ開キ或ハ



小數ニ化シテ開法ヲ施スナリ  
 開立ノ定義、或數ノ立方根ヲ求ムル算法ヲ開立ト云フ  
 開立ノ規則、整數ノ開立商ヲ求ムルニハ其數ノ右端ヨリ三位ヅ、ニ  
 群ヲ切り其左端第一群ノ開立商ヲ求メテ之ヲ所要開立ノ首位ルチ  
 得ルノ立方チ第一群ヨリ引キ之ニ第二群チ下シ加ヘ第一ノ殘數ヲ  
 作ルベシ此殘數ナルノ平方三百倍ニテ除シ其完全商  $m$  ナルノ三倍  
 ノ右ニ加書シ之ニ  $m$  乘シタル者チ第一殘數ヨリ減ズベシ若シ減  
 シ得ザルキハ  $m$  ヨリ一チ漸減シテ同法ヲ試ミ減シ得ルニ至テ止ミ  
 以テ開立商ノ第二字チ定メ而シテ減法ノ結果ニ第三倍チ下シ第二  
 ノ殘數トナス今又既得ノ開立商ノ二ノ數字ノ示ス處ノ數ヲ二乘シ  
 其三百倍チ以テ除シ開立商ノ第三位チ定ムル前ノ如シ漸次此法  
 チ續ケ終末ニ至リテ開立商ヲ得ベシ而シテ時ニ猶殘數ヲ止ムルコ  
 アリ

小數及分數ニ就テノ注意ハ開平ノ部ニ全シ  
 指數及根號開指數ノ定義、數ノ幾羣カチ示ス右肩ノ小字チ指數ト云  
 ヒ開方チ施スベキチ示ス符號チ根號ト云ヒ根號ノ上ニ書シ其幾羣  
 根ナルカチ示ス數字又ハ文字チ開指數ト云フ例ハ  $a^3$ 、 $\sqrt[7]{9}$  及  $\sqrt[101]{1}$   
 ニ於テ 3 ハ指數、 $\sqrt{\quad}$  ハ根號、4 ハ開指數ナルガ如シ

設 問

- (一) 八、九、十或ハ二、三、四ノ如ク連續シタル凡テノ三數ノ積ハ常ニテ六ニ  
 テ除シ盡シ得ベシ其證ヲ問フ
- (二) 三ハ一ヨリ大ナルチ說ケ
- (三) 分數ニ於テ分母分子ニ同數チ乘除スルモ其值變セズ理由如何
- (四) 二數ノ積ハ常ニ其最大公約數及最小公倍數ノ積ニ等キハ何故ゾ
- (五) 整數ノ乘算ハ加法ノ零法ニシテ其除法ハ減法ノ零法ナリトハ何ノ  
 理由ニヨリテカ



〔六〕二千八百六十四ナル數ヨリ二、八、六及四ノ和ヲ減セル殘ハ九ノ倍數ナリ其證明如何

〔七〕船アリ港ヲ距ル百五十海里ナリ風ノ都合ニテ一時間二十海里進ミテハ直ニ七海里吹キ流サルト云フ此船港ニ達スル迄ノ時間幾何但シ港ニ入レハ吹キ流サル、憂ナシ

答十一時間

受驗 中學豫備門上卷終

博文館發兌受驗必携書類

●内山正如君著  
受驗問答 日本地理一千題 正價拾二錢 郵稅四錢

●内山正如君著  
受驗問答 日本歴史一千題 正價拾二錢 郵稅四錢

●内山正如君著  
受驗問答 支那歴史一千題 正價拾二錢 郵稅四錢

●高槻法學士序文、高橋光威、稻見紀一郎兩君  
受驗問答 萬國歴史問答大全 正價四拾錢 郵稅八錢

●博士ドロップス君序文、高橋光威、稻見紀一郎兩君譯  
受驗問答 萬國地理問答大全 正價三拾錢 郵稅六錢

●大宮宗司君著  
受驗問答 國文學一千題 正價拾二錢 郵稅四錢

●岸上操君著  
受驗問答 漢學一千題 正價拾二錢 郵稅四錢

●須永金三郎君著  
受驗問答 博物一千題 正價拾二錢 郵稅四錢

●須永金三郎君著  
受驗問答 物理一千題 正價拾二錢 郵稅四錢

●須永金三郎君著  
受驗問答 化學一千題 正價拾二錢 郵稅四錢

●高槻法學士序文、村松直一郎君著  
受驗問答 宜立學校入學試驗問答案 正價拾二錢 郵稅四錢

●石川雅二君著  
商業學校入學試驗問答案 正價拾五錢 郵稅四錢

廣

告



明治二十六年十月廿六日印刷  
明治二十六年十月廿七日發行

定價金拾貳錢

編輯兼  
發行者

野口竹次郎

日本橋區本石町一丁目九番地

印刷者

杉原辨治郎

京橋區元數寄屋町四丁目二番地

印刷所

杉原活版所

京橋區元數寄屋町四丁目二番地

明治二十二年十月十八日內務省許可



發兌元博文館

東京日本橋區本町三丁目



明治三十二年十二月十八日內務省許可





古今圖書集成

總目録

版  
權  
人  
録

長  
孫  
氏  
撰  
中  
學  
予  
備  
門

梶  
原  
藍  
山  
著

卷  
上

經天閣

049506-001-4

特26-161

中學予備門(受験必携)

梶原 藍山/著

上

M26

BEM-0168

